



技術史教育

ISSN 0917-9089

第117号

2019.1.31

Education for History of Technology

第117号 目次

- 日本技術史教育学会2018年度全国大会(厚木)開催報告……………岡崎 昭仁(1)
 全国大会(厚木)見学会報告……………岡崎 昭仁(2)
 日本技術史教育学会関西支部2018年度総会・研究発表講演会案内…………渡部 紘一(3)
 お知らせ・理事会議事録・編集後記……………(4)

【全国大会報告】

日本技術史教育学会 2018年度全国大会(厚木)開催報告

2018年度全国大会実行委員会

実行委員長 岡崎昭仁(神奈川工科大)

日本技術史教育学会の2018年度全国大会・研究発表講演会は、2018年12月22日に神奈川工科大学で開催され、総勢34人の方々に参加いただきました。特別講演には、神奈川工科大学の教授の石綿良三教授をお招きして、「なぜ間違いは伝達・拡散するのか? (流体力学に関する誤認識)」と題した講演をしていただきました。風船などの実演教材を用いた講演は大変興味深いものでした。

なお、石綿教授は、講演で使われた実演機材を講演会場の外に設置してくれ、参加者が休憩時間に体験できるように配慮してくれました。

一般研究発表講演会では、14件の研究発表が行われ、いずれの講演においても真剣な質疑応答がなされ、参加者一同にとって有意義な研究発表講演となりました。併せて、大会運営を支援してくれた学生たちからは、分野が多岐に渡り、とても興味深いとの言葉が聞かれました。

発表は次の通りでした。まず、午前中は、技術史・技術文化史のセッションから始まり、「曹文ダム建設をめぐる諸問題」(武長玄次郎会員他1名)と題する発表から始まり、「戦前・戦中の戦闘機開発に見る開発力の比較」(著者)、「鉱山地図の検証Ⅱ-佐渡金銀山大滝間歩および弥吉間歩-」(久間英樹会員他1名)の3件の発表と特別講演がありました。

午後は、技術論・科学教育・技術教育のセッションから始まり、「機械製図の文化の変革に関する研究 第17報 製図の文化・製図論について(その4)」(平野重雄会員他3名)、「各種機器分析の化学史と化学分析手法を工学教育に活用する一考察-応用化学の実用化の過程を核に、生徒の好奇心を引き出す高等学校理科授業実践-」(丸山晴男会員他1名)、「機械工学教育の教材として使用可能な小型競技用電気自動車の開発」(高峰会員)、技術論・技術文化のセッションでは、「パネル型ソーラークッ

ーの梱包箱への応用」(中條祐一会員)、「日本における大規模風力発電導入の歴史(第2報)」(牛山泉学会長他1名)、「東京荒川区における野菜生産」(吉田喜一会員)、「プータンと日本の技術交流小史(第7号)プータンのGNH思想とロバート・オーウェンの環境決定論の技術史的な一考察」(白井一会員)、技術史・技術文化史Ⅱのセッションでは、「タクラマカン砂漠の謎の民-アリア系民族とその技術-」(下間頼一会員他2名)、「古代メソポタミア文明遺跡の実地調査研究-第3報 古典期最大の国際都市・テオティワカン文明-」(渡部紘一会員)、「中国の石造アーチ橋の実地調査研究-京杭大運河北端の通惠河に架かる永通橋(通称:八里橋)-」(南正晴会員他1名)、「芥川龍之介「トロッコ」と豆相人車鉄道」(山館順会員)と11件の発表があり、午前と午後で合計14件の発表となりました。

特定の専門領域に限定されない発表は、質疑も示唆に富み興味深いものがありました。

全国大会初日の講演発表日程終了後は、厚木市内を展望できる会場にて懇親会が開催されました。懇親会では、石綿教授の「流体力学的な余興」が行われ、参加者一同盛り上がりしました。翌日の見学会を含め、全国大会を無事開催することができ、実行委員一同大変嬉しく感じ、皆様のご協力に感謝し報告と致します。

2019年1月



日本技術史教育学会2018年度 全国大会(厚木)見学会報告

岡崎昭仁(神奈川工科大)

見学を企画するにあたり、行先を決めるのに迷った。開催地の厚木を知ってもらう、織物の街である半原、駒作り職人がいる大山、三溪園と港町の横浜等々、選択肢はいくつもあった。三連休中でもあり、混雑する可能性はあったが、電車の乗り換えも少なく、知名度の高い箱根に決めた。箱根と言えば温泉である。そこで、温泉の歴史を訪ねることにした。

9時半に小田原駅に集合、ここは小田急線、箱根登山鉄道線、JR東海道線、東海道新幹線が乗り入れている。集合の後、箱根登山鉄道(一般的な四両編成の「電車」)で箱根湯元駅へ向かった。

人通りが多い中、徒歩で「箱根温泉発祥の碑」へ向かった。さすがに技術史の学会、ここでは参加者の皆さんが熱心に撮影をされていた。それにしても人が多い、さすがに連休中の「世界の箱根」である。

続いて、昔は旅人が通ったと思われる旧街道を見ながら、「箱根町立郷土資料館」に向かった。ここでは、学芸員の野坂氏が約1時間に渡り丁寧に箱根の成り立ちを説明してくれた。奈良時代には既に温泉場があったと江戸時代の書物に書かれているとのことで、古くから温泉場があったようである。江戸時代には、「箱根七湯」(湯元、塔ノ沢、堂ヶ島、宮ノ下、木賀、底倉、芦之湯)が絵図に描かれ、お湯が江戸城に献上されるなどし、現代で言うがバブ(絵巻)を確認できた。

明治時代になると、人力車や馬車には箱根の登山道は適しておらず、この問題を福沢諭吉が新聞に投書し改善を求めた。地元の旅館主などが立ち上がり、道が整備され通行料を徴収する日本初の有料道路が整備された。やがて、外国人が避暑に訪れるようになり、富士屋ホテルと奈良屋の宿泊客争奪戦が起こり、それぞれ、外国人向け、日本人向けと棲み分けをした。その後、外国人や国内の著名人は、箱根に別荘を持つようになり、温泉掘削技術の進歩と箱根登山鉄道の開通により、強羅などの別荘地が開発された。箱根登山鉄道は大正8年には現在のルートになった。

戦後は交通網の発達に伴い、小田急(東急)と西武の熾烈な競争が起こり、「箱根山戦争」と呼ばれ、本になり映画にもなった。今では、箱根は十七湯(一説には二十湯)を数え、一大温泉地である。

学芸員の野坂氏には大変お世話になった。参加者の先生方は好奇心旺盛なので、説明を聞きながら、自身の足でも見学していた。さて、「箱根の温泉の成り立ちを学ぶ」目的達成である。

一向に止まない雨の中を箱根湯元駅へ戻った。ここから箱根登山鉄道(元祖登山鉄道)に乗車した。向

かうは終点の強羅駅である。車内は満員である。海外からの観光客が半数程度であろうか。若い中国人の女性が高齢者に席を譲っていた。これから、鉄道としては日本一の勾配を登っていく。

まず、塔ノ沢駅を出ると出川信強場に停車、ホームはあるが乗降ドアは開かない。ホーム上を運転士と車掌が歩いている。進行方向を変え、「スイッチバック」である。隣の線路には、下り電車が並んだ。間もなく、車内の案内表示板も向きが変わることに気づく。その後、大平台駅、上大平台信号場と計3回のスイッチバックを行って強羅駅に到着した。「3度のスイッチバックを体験する」目的達成である。

強羅も人、人、人である。以前、ここには会社の実験車両(大型タンパー)で来たことがある。食事を済ませて「強羅公園」へ入園すると雨足が激しくなり、雨宿りがてら園内の温室を見学することにした。時勢柄、ポイントセチアを使ったクリスマスのモニュメントがきれいであった。園内を散策、諸説あるが、岩がゴロゴロしているから、「強羅(ごうら)」という地名になったそうである。園内の奥へ来たところで、昔を思わせる大きな岩が沢山見られ、昔の強羅の姿を想像しながら、どのようにして大きな岩を運んだのか、参加者一同で議論しました。ピラミッド建設のようにそりで運びだしたのか、熱して水をかけて割って小さくしてから運んだのか等々、話は尽きなかったが、「開発前の強羅の姿を見る」目的達成である。

帰りの途、強羅駅で電車を待っていると、到着したケーブルカーから沢山の人が降りてきて、ホームは人で一杯になった。まるで朝夕の新宿駅のようなのである。勿論、帰りの電車も満員、これだけの人が乗っていれば箱根も安泰だと思った。

午後4時頃、小田原駅で解散、参加してくれた先生方と箱根町立郷土資料館の野坂氏に感謝します。箱根に興味のある方は、各温泉地を歩いてみると発見があり、面白いのでお勧めします。 2019年1月



日本技術史教育学会 関西支部2018年度総会(通算第16回) 研究発表講演会(通算第12回)開催案内

支部長 渡部 紘一(元 松江高専)
幹事 南 正晴(元 三菱重工)

主催: 日本技術史教育学会, 同 関西支部
協賛: 技術文化史研究会, 日本メカニズム・アート研究会
日時: 2019年3月10日(日) 9:50~17:30
場所: 大阪産業大学 梅田サテライト キャンパスA教室
〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前 第3
ビル19階(同封の参加申込書裏面に地図記載)
TEL: 06-6442-5522, FAX: 06-6442-5524
<http://www.umed-a-osu.ne.jp/>

《プログラム》

受付開始 9:30より
(講演開始後は会場内後方で随時受付)
開会挨拶 9:50~9:55
関西支部長 渡部 紘一(元 松江高専)

【研究発表講演(1)技術文化史Ⅰ】

- 座長 山岡 章宏(技藝工房マップアン)
- (1)10:00~10:20 北イェメンにキリシヤ建築の起源を探る
○下間 頼一(元 関西大学)、塩津 宣子(技術文化史研究会)、与田 弘子(同左)
 - (2)10:20~10:40 時を刻む-香時計に見る古代の技術-
○塩津宣子(技術文化史研究会)、下間 頼一(元関西大学)
 - (3)10:40~11:00 古代メソアメリカ文明遺跡の実地調査
研究-第4報 マヤ文明古典期の都市(1)・カラクムルと
パレンケー 渡部 紘一(元 松江高専)

【休憩】11:00~11:10

【研究発表講演(2)技術史・技術文化史Ⅱ】

- 座長 吉田 喜一(元 都立産技高専)
- (4)11:10~11:30 朝鮮における石炭積み出し港の整備
と水陸連絡設備の技術的特徴について-1910
~1945年を中心に- 井上 敏孝(兵庫教育大学)
 - (5)11:30~11:50 国鉄電車カム軸制御の技術史調査-
社内プロジェクトの記 真保 光男 (JR東日本テクノロジーズ)
 - (6)11:50~12:10 内田百閒の初期文章における鉄道
山舘 順 (サレジオ高専)

【昼食休憩】12:10~13:00

【特別講演】 座長 渡部紘一(元 松江高専)
13:05~14:05 科学と考古学
飛田 正美 (元千葉市立加曽利貝塚博物館 館長)

【休憩】14:00~14:10

【研究発表講演(3)技術教育】

- 座長 佐々木 堯(関西大学院生)
- (7)14:10~14:30 都立産技高専・科学技術展示館
の特徴 吉田 喜一(元都立産業技術高専)
 - (8)14:30~14:50 プータンと日本の技術交流史(第8
号)プータンの近代化黎明期の教育とロバート・オーエン
の「教育観」 白井 一(NPO法人国際建設機械専門家協議会)
 - (9)14:50~15:10 「防災」と「モノづくり」を連携させた
工作教室の実践 本多 将和 (松江高専)

【休憩】15:10~15:20

【研究発表講演(4)技術文化史Ⅲ】

- 座長 真保 光男 (JR東日本テクノロジーズ)
- (10)15:20~15:40 関西鉄道の研究 第4報 二つの
桃山駅について ○山岡章宏(技藝工房マップアン)、坂本 勇(元 大阪
産業大学)
 - (11)15:40~16:00 寝殿造の源流についてⅠ-風水
と浄土変相図を中心にして- 佐々木 堯(関西大学院生)
 - (12)16:00~16:20 日本最古のため池『狭山池』誕生
の歴史についての考察 南 正晴(元 三菱重工業)

16:30~17:00 【支部総会】

17:05~17:15 【集合写真撮影】

17:30~19:30 【交流会】

「ニュー・トーキョー 大阪第一生命ビル店」(TEL:06-6346-7
451) (JR大阪駅まで徒歩5分、ビヤレストラン 飲み放題)

【参加費】

研究発表講演会参加登録費:3000円、非会員も同
額の参加登録費が必要です。

昼食代:1620円(要予約)同ビル地下1階の飲食店
街が利用できますが混雑が予想されます。別紙の参
加申込書による予約をお勧めします。代金は昼食会
場で各自お支払いください。

交流会参加費:5000円。

【見学会】

3/9(土)の見学会は、別紙で御案内いたします。

【 2018 年度臨時総会報告 】

日本技術史教育学会全国大会(神奈川・厚木)の研究発表講演会終了後、17 時から臨時総会が開催された。第 10 回日中国際会議実行委員会の白井一委員長から国際会議の会計報告がされた。また、編集担当の桑原啓一理事から、資料は査読を不要とすることが提案され、了承された。また、企画担当の武長理事から研究発表講演会の論文ページ数が従来 3 ページまでであったが、4 ページまでとする提案があり了承された。2019 年機械設計・技術史国際会議の渡部紘一実行委員長より、会議の進捗状況が報告された。

【 2019 年度総会・研究発表講演会講演募集 】

2019 年度総会・研究発表講演会を下記のとおり開催いたします。つきましては研究発表を募集いたしますので、ご希望の方は申込期日までに事務局宛お申し込みください。

開催期日:2019 年 6 月 8 日(土), 9:00~

開催場所:サレジオ高専(会場等は次号ニュースレター掲載)

研究発表の申込方法

①講演者名(登壇者は会員であること。氏名の前に○印を付ける)及び所属名

②主題(タイトル)、副題(サブタイトル)

③講演者連絡先(住所・TEL/FAX・メールアドレス)

④講演発表時使用機器(パワーポイント等、PC は各自持参)

上記の①から④までを A4 判用紙に記載し、封書で学会事務局宛郵送してください。なお、今回から下記のアドレスに、件名を「2019年度総会研究発表申込(申込氏名)」とした添付ファイルでの申込みも受け付けいたします。登壇講演者は 2019年度会費を納入済みであること、申込受付後の講演題目変更はできません。

◇研究発表講演申込期限:2019 年 4 月 8 日(月)必着

◇研究発表講演論文原稿提出期限:2019 年 5 月 8 日(水)必着(原稿未着の場合は講演申込辞退とみなし、講演論文集への掲載は致しません)

◇研究発表講演申込先:メール happyou.jseht@gmail.com 宛または封書で〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル 6F (株)プラス・ワン気付 日本技術史教育学会事務局 2019 年度総会実行委員会宛お送りください。

講演希望件数が多い場合は研究発表の時間を調整させていただきます。あらかじめご了承ください。

【 功績賞・業績賞の候補者募集 】

日本技術史教育学会規定により、下記の要項により、功績賞・業績賞を募集いたします。表彰内容、表彰者資格、表彰候補者の推薦につきましては表彰規定のとおりです。

1.募集要領

1)A4 判用紙を使用

2)表彰の名称(表彰の種類を明記)

3)候補者の所属、部署、氏名(自薦は連絡先を追加)

4)推薦理由(400 字程度)

5)推薦者の所属、部署、氏名、連絡先(自薦は不要)

6)送付先:学会事務局宛、「表彰応募」と封筒に朱記して郵送

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル

6F (株)プラス・ワン気付 日本技術史教育学会事務局

2.募集期限 2019 年 4 月 18 日(月)消印有効(厳守)

3.問合せ先 学会事務局宛、FAX でお願いします。

FAX:03-3835-2494

4.贈賞、表彰時期 2019 年度総会

5.その他 表彰規定については学会誌をご参照ください。学会ホームページにも掲載されています。

【 理事会議事録 】

◆第154回(通算197回)理事会

日時:2018年12月8日(土),15:00~18:00,場所:

場所:サレジオ高専1階104室(事務会議室),出席者:堤・鈴木・山舘・武長・岡崎・桑原・中條・穂積
議題 0) 前回(第153回)議事録案承認,1)各部門報告<総務(ホームページ更新確認、会員動向、会費納入状況)、編集(学会誌、ニュースレター編集関連)、企画(2018年度全国大会開催、2019年度総会開催)、関西支部(2018年度関西支部総会開催)>,2)国際会議開催実行委員会報告,3)創立25周年に向けて,4)その他,5)次回理事会:2019年2月開催予定

【 2019年度会費納入のお願い 】

2019年度会費の納入を、同封した振込用紙によりお願い致します。本学会の運営は会員の皆様の会費でおこなわれています。2018年度までの会費未納の方も、早急な会費の完納にご協力ください。

【 編集後記 】

2019年度総会・研究発表講演会は東京のサレジオ高専で開催いたします。皆様のご講演申込みとご参加を実行委員一同お待ちしております。国際会議を関西大学区(大阪)に於いて開催する予定で準備を進めております。会員の皆様のご参加をお待ちしております。(穂積洋一)

日本技術史教育学会ニュースレター 第117号

2019年1月25日 印刷

2019年1月31日 発行



技 術 史 教 育

Education for History of Technology

発行者
編集

日本技術史教育学会 会長 牛山 泉
日本技術史教育学会
(株) プラス・ワン気付 日本技術史教育学会 事務局
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル 6F

TEL/FAX: 03-3835-2494

E-Mail: jseht@nifty.com